



## 目次

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1 愛称「OpuL」オーブルに決定 | 6 データーベースで探す     |
| 2 特別寄稿            | 7 こんな時どうする？Q & A |
| 3 特集 古典に親しむ       | 8 図書の本           |
| 4 学生からの寄稿         | 9 図書館からのお知らせ     |
| 5 「読書のス・ス・メ」      |                  |

## 愛称「OpuL」オーブルに決定

附属図書館長 野津 滋

図書館報第2号をお届けします。本号では、県立大学と包括協定を締結した総社市の片岡市長から特別寄稿を賜りました。また、図書館の充実に長年尽力され今春退職された仲達前図書班長からメッセージをいただきました。特集は「古典に親しむ」です。

さて、創刊号で募集しました図書館報の愛称が決まりました。応募いただいた候補には、親しみやすいもの、キャンパスが建つ土地にちなんだものなど力作が寄せら

れ、図書館専門委員と図書館職員で投票した結果、「OpuL」（オーブル）に決定しました。Okayama Prefectural University Library の頭文字をとったシンプルで覚えやすい愛称で、デザイン学部4年生藤原利子さんの作品です。他の候補には「オプトくん通信」（第2位）、「樺の木」（第3位）などがありました。

今後、図書館同様に「OpuL」が皆様に未永く愛されることを願っています。

## 特別寄稿

### 読書偶感



総社市長 片岡 聡一

私は、本が好きである。読書は、人の行動を変え、その行動が感情を築かせ、ひいては人を変える不思議な力を持っている。素晴らしい本に触れることは、特に大切である。

私が21年間お仕えた橋本元総理も、大変な読書家であった。速読法を身につけておられ、例えば、沖縄往復日程ぐらいだったら400頁程度の文庫本は軽く読破されていた。大臣から、1日の終わりにポンと「ほら、これを読んでみる」と、よく本をいただいた。そのいくつかの本が、橋本総理というフィルターを通じて、この世を変えたと思うし、それが、そっくりそのまま私の血となり、肉となっていたと体感している。

私自身も、小学生のころから、よく本を読んでいた。当時のお気に入り「十五少年漂流記」で、この本をまねて、近所の山で毎日のように基地ごっこをしたものだ。大学生

になると、司馬遼太郎に魅了された。「竜馬がゆく」は何度も読んでいるが、どうしても最後の竜馬が殺されるシーンだけは読めない。だから、私の心の中では、今も竜馬が生き続けている。就職してからは、ふらりと本屋に入り、目に留まった本を手当たり次第に読むという乱読家になってしまった。秘書官時代には、特に、ヘミングウェイの「武器よさらば」のくんだり、余分な修飾語がなく、それでいてスリルとスペクタクルにあふれ、臨場感を彷彿とさせる彼の手法は、そのまま、スピーチや大臣原稿の素地となった。そういう意味では、私にとって、読書とは、スポーツ選手の筋力トレーニングのようなものと言える。また、ケン・フォレット「自由の地を求めて」やクリスチャン・ジャック「太陽の王ラムセス」なども一度は読んで欲しい1冊である。

私は、時間を見つけて、本と向き合い、自分を見つめなおしたり、自分を高めたり、変えていきたいと思っている。併せて、市長として、本の持つ効用を市民に伝え、読書を推奨する姿勢を持ち続けることをお約束する。

ただ、一つだけ自らに決めていることがある。それは、政治や行政の本は読まないこと。市政に反映させるのは、書物からの知識ではなく、現場で聞いた声であり、感じた心であると信じているからである。



## 特集

## 古典に親しむ



### 「世界を創った男 チンギス・ハン」

堺屋太一 著

保健福祉学部長 中嶋 和夫

「古典に親しむ」と聞いて、私なりに古典の読み方を、専門分野で研究者として、および教養を高めるといふ読み方に分類して考えてみると、自分のこれまでの経験は、量的には圧倒的に後者の立場で読んできた経緯であったと自覚しています。もちろん、学生時代は、西洋哲学に憧れ、しかし古典と言っても日本語に翻訳された岩波書店のプラトンらのギリシャ哲学、カントらのドイツ哲学、サルトルらのフランス哲学のつまみ食いをした経験を持っています。極言すると、読書三昧の4年間といっても過言ではない生活でした。特に、ハイデッカーの代表的な著書「存在と時間」がとても難解だったことが思い出されます。

しかし、就職してからは、そのようなジャンルの古典を読むことはほとんどありませんでした。馬齢を重ね、10年

ほど前から、中国の孔子や老子、あるいは孫子の書いた東洋的な哲学や思想が気になって、時々それを買ひあさって、といつても、あいかわらず概説書を読んでおります。ごく最近では、万葉集などといった日本の古典のつまみ食いもしながら、日本人の「心情」に関心があります。

古典のよさは、人生の知恵が凝縮されていることが多いので、それはストレスが高くなったり、人間関係がうまくいかなくなったり、自身を目標に向けて駆り立てようとするときに、大きな指針になることです。教養としての古典とは、私にとってはそのようなものであって然るべきで、これからも、日々を自然体で生きる知恵、先人も自分と同様な経験があったのかと共鳴できるもの、さらに言うなら眠りへの媚薬としても、我流に古典に親しんでいきたいと思っています。ただし、教養を高めるといふ意味では古典に限らず多くの現代文学もあり、それらも含めて総合的に読書にチャレンジするスタイルを大切にしたいと思っています。

以上のことを踏まえ、「多読・乱読こそ、そしてその結果として、あなたの脳裏に焼き付いた内容そのものが、あなた自身の生き方であり哲学である」とまとめさせていただき、かつ、古典の範疇にはは入りませんが、自分の人生観に近い好きな言葉として、経済新聞に掲載されていた『世界を創った男 チンギス・ハン』(堺屋太一著)に頻繁に出てくる「人間(じんかん)に差別なし、地上に国境なし」を挙げさせていただき、私の古典に関する雑感とさせていただきます。

### 「価値創造する 美的経営」

中西元男 著



地域共同研究機構長

奥野 忠秀

CIの古典的な書である。現在では、CIは経営資源としての価値が定着し、その中で主導的役割を果たすデザインの意義は広く認識されている。しかし、私が関西の某電器メーカーの電池部門でデザイン開発をしていた18年前は、その存在・価値はほとんど認知されていなかった。

当時の電池の用途を創りだす製品開発のデザインは、面白くやりがいのあるものであったが、部門内の売上げ比率では僅か5%にすぎなかった。デザインが残り95%を占める電池販売にいかに貢献できるか、会社の経営に深く関わりその存在感を高めるためにはどうすれば良いのかを考えていた私に、本書は大きなヒントを与えてくれた。

「企業での経営資源は人・モノ・金というが、これは人間でいうと体力のようなもので、これからはこれに加え知力として創造力や洞察力を、魅力として表現力や演出力がなければ企業経営はうまくいかない。」という考え方を説いた本書を「デザインの行動哲学」として、音楽用やキャラクター電池の提案、製造から販売・宣伝までも巻き込んだイメージ戦略を次々と具現化していった。

デザインの感性価値創造は、電池という性能が直接訴求しにくい製品に新たな魅力とこだわりを与え、企業の魅力づくり・お客様から選んで頂けるブランドづくりに貢献できたと思っている。

また本書は、「デザインはモノのかたち作りのプロ」という狭い認識を、「デザインはあらゆるモノ・コトの価値を創造し、問題解決へのストーリーとして具現化するプロ」という経営に直結する自信へと導いてくれた。

現在は、教員として教育・研究・学内マネジメントに関わる昨今だが、専門職としての自信がそうさせるのか時折近視眼的な思考に陥ることがある。そのときは本書を読み返し、私にとってのデザインの原点にもどり、より大きな視点で問題を捉える契機としている。

本を読んで  
コメントを書こう!!

ベストリーダー・コメント賞開催中(～1月末)!! 今年も素敵な賞品《図書カード》をご用意してお待ちしております 詳細は図書館で



## 学生からの寄稿

### 人と出会う。

「きみの友だち」重松 清 著



デザイン学部  
工芸工業デザイン学科4年  
田ノ岡 高志



「ありのままでいい」という言葉はよく使われますが、いつでもどこでもありのままでいいという事はありません。人には周りに見せられる部分と、そうでない部分があるものです。時には人に言えない感情や、体験をする事もあるでしょう。そんな時大切なのはその気持ちを分かち合える人がいる事だと思います。

僕が最近読んだ「きみの友だち」という本の中には、様々なコンプレックスを抱えた登場人物が出てきます。そのどれもがリアルで、小さく個人的な悩みの一つ一つが、

自分にとってとても共感できるものでした。案外自分が悩んでる事は誰でも考えている事なんだ、という気にさせられ、心が軽くなった一冊でした。

本を読む事は、とりもなおさず人に出会う事だと思います。多くの本を読めばそれだけ多くの登場人物や作者と出会えます。その中には、ありのままに近い自分を重ねられる人がいるかもしれません。あるいはそういった人達の言葉を借りて、自分を説明できるかもしれない。それは何百年も前の人が同じ様に悩んでつぶやいた言葉であったり、同世代の素直な心の叫びであったりするでしょう。なんにせよ自分が共感したものは、自分の生き方を応援してくれる大きな味方になるはずで。

またジャンルに関係なく手当たり次第に本を読みあさる事を乱読といって、若い時にはこれが良いとされています。様々な世界に向き、自分がじっくりく言葉や考え方を探す。また、自分とは違うけれども魅力的だと思う生き方をしている人がいればそれを取り込み、新しい自分をつくっていく。そういった事が、若い時にする読書の大きな意味ではないでしょうか。

楽しい以上に、不安や苦しみを分け合える人と出会う事が生きていく上では必要だと思います。本の中には、自分以上に苦しんでいる人も、輝いている人もいます。本を読むのが億劫だと言う人、まずはそういった出会いを信じて、ページを開いてみませんか？



### 読書の

ス・ス・メ



前図書館図書班長  
仲達 敏江

私は、本年3月末に本学附属図書館を退職し、6月に念願のドイツ・スイスを旅してきました。

ドイツで訪れた古都ハイデルベルクでは、中学生の頃読んだ「アルト・ハイデルベルク」(マイアー・フェルスター著)が頭をよぎりました。ドイツの小国の王子カールと酒場で働く少女ケティーとの清純な愛の物語、幸せな日々そして悲しい別れに自分をケティーに置き換えて涙した頃を懐かしく思い出し、古い町並みの石畳の路地を歩くと、今

にもカールとケティーの楽しい会話が聞こえてくるようでした。

この旅をきっかけに、青春の書で深く心に残っている「嵐が丘」(エミリー・ブロンテ著)の舞台、イギリスのハワースを訪れたくなりました。

それは、当時この小説を充分咀嚼できなかった思いから、心の奥



にひっかかる蟠りがいまだに取り拭えないからでしょう。

ヒースクリフとキャサリンの激しすぎる感情に圧倒され、彼の狂気に恐怖さえ感じ又、二人の魂が彷徨う荒涼とした地に這うようにヒース(日本名エリカ)が広がる原野とはどんな所なのかと興味を持っていました。そこを訪れたら、もう一度改めて「嵐が丘」を読んでみようと思います。積み重ねた年月が、新たな味わいを発見させてくれる予感がします。

書物は、時空を越えてどんな時代・場所にも読者を誘ってくれますし、どんな人をも演じさせてくれます。登場人物に自分を重ねることにより、今まで知らなかった自分を教えてくれることもあります。私の場合、若い頃の本との出会いは“自分探し”でもあったと思います。

「晴れた日は図書館へいこう」(緑川聖司著)に、「一冊の本は、そのままひとつの世界だと思う。表紙をめくれば、そこには、いままで見たことのないような新しい世界が広がっているのだ。だから、たくさんの本が並んでいる図書館は、わたしにとっては新しい世界への無数の扉だった」と書かれています。

学生の皆さんには、たくさんの本を読み、その内容から受けるものの素晴らしさを感じ取り、心豊かな青春を送っていただきたいと思っています。



館長から公立大学協会図書館協議会の  
永年勤続表彰を受ける筆者

## データベースで探す

第2回



どんな論文・雑誌記事があるか探す  
著者名やキーワードなどを入力することで論文・雑誌記事が探せます。  
論文の掲載雑誌・巻号・ページなどの情報を調べることができるので特定の論文・雑誌記事も探すことができます。

### CiNii

・学術雑誌と大学等で発行された研究紀要の両方を検索

し、検索された論文の引用文献の情報も探せます。  
・論文によっては本編へのリンクもできます。

### MAGAGINEPLUS

・論文だけでなく週刊誌などの記事検索も出来ます。

### 医中誌Web

・国内医学文献の抄録誌(\*)「医学中央雑誌」のWeb版  
・国内の大学・学協会・研究所・病院等が発行している約5,000誌の定期刊行物に掲載されている文献情報が収録されています。

\*抄録とは学術文献などの内容を短くまとめた文章(要約)のこと。

・図書館のホームページ 学内者専用データベースから利用できます。(図書館:浅野)

## こんなときどうする? Q&A

Q: 返却期限が近いのですが、開館時間内に図書館に行けません。

A: 郵送で送っていただいても結構です。また、図書館西側入口に返却ポストが設置されていますのでご利用ください。ただし、付録のCD-ROMを借りられている場合は別とします。

Q: ノートパソコンを貸してもらえるの?

A: 館内のみですが、貸出を行っています(2時間以内・更新あり)。ご希望の方は学生証を持ってカウンターにお越しください。ただしインターネット

及びプリンターへの接続はしておりません。

Q: ビデオやDVDは借りられるの?

A: 貸出できません。館内のみ利用可能となっています。ご希望の方はリモコン・ヘッドホンをカウンターで受け取って視聴してください。

Q: 県立図書館で借りた本の受取や返却ができるの?

A: できます。ただし、県立図書館のカードの申込みは同図書館にて各自行ってください。また、受取はインターネット予約の本に限ります。県立図書館のカードをご持参ください。(図書館:宮川)



## 図書館の森



### 「貴重本」から

今回もガラスケースの中。「納札と千社札」(岩崎美術社刊)を紹介します。

聞き慣れないタイトルかもしれませんが、中を開けば粋と洒落、遊び心いっぱいの江戸のグラフィックデザインです。

社寺に詣でたときに一度は目にした事があるかと思いますが、本殿の天井などに貼られた紙の札で、自分の名、生国、店名などが書いてあります。(もちろん千社詣での者

が持参し祈願して貼るわけで、勝手に貼ってははいけません。)

本書はそれらの逸品を集め、札の中に表現された趣向をも解説しています。

(図書館:花岡)



## 図書館からのお知らせ

### 写真で見る

#### 「総社が生んだ傑物 古川古松軒」特別企画展

- ・11月11日(火)~11月29日(土)  
附属図書館エントランスホール
- ・12月2日(火)~12月7日(日)  
総社市総合文化センター 市民ギャラリー
- ・12月6日(土)13:30~ 同上「第6会議室」  
「古松軒を語る会」定員30人(要事前申込)  
講師:竹林栄一氏(元岡山県立博物館副館長)

### 冬期休業にともなう開館時間等の変更

- 開館時間:12月24日~1月7日までは  
9:00~17:00
- 休館日:土・日・祝日と12月27日~1月4日
- 貸出冊数:学生1人10冊、12月9日~1月7日
- 返却日:1月8日(12月9日~12月24日貸出分)

この図書館報は図書館のホームページからもご覧いただけます。